**エントリーシート**2024年　　　７月　　3日現在

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ふりがな | ふぁんぼ　　みん | |  |
| 氏名 | HWANGBO MIN | |
| 学校学部学科  年次 | 早稲田大学　国際教養学部  　　４　　　年 | |
| メールアドレス | hwangbomin0195@gmail.com | |
| 携帯電話 | 070-4200-3644 | | 性　別 |
| 生年月日 | 2001　　　年　11　　月　11　　日生　（　　　22　　歳） | | 男　・　女 |
| 現住所 | 〒　171　　-　　　　0033  東京都豊島区高田1丁目17番26号　ウィド早稲田　1A14号 | | 電話  (+81) 70-4200-3644 |
| 休暇中住所 | 〒　 41074　　-  大邱廣域市(大邱広域市) 東區(東区)　パンヤウォルブクロ(半夜月北路)　221, シンソン西華城パークドリーム 106棟 2105号 | | 電話  (+82)10-3911-7689 |
| 学歴 |  | 学校名（中学校卒から） | |
| 2013年　9　 月 | 大邱国際学校 | |
| 2020年　5　 月 | 大邱国際学校 | |
| 2020 年　　9 月 | 早稲田大学 | |
| 2024 年　　9 月 | 早稲田大学　（卒業予定） | |
| 年　　 月 |  | |
| 年　　 月 |  | |
| 保有資格 | 日本語能力試験　二級、TOEIC 895点 | | |
| 自己ＰＲ（自分の長所や強み、弱点について記入してください）  私は批判的な分析力で、新たな目的に向けて情報を分析し、段階的な計画を立てて、環境に応じた支援を提供できます。 大学時代に、大学国際交流センターで言語イベントサポターズとして韓国語や韓国文化を教えるイベントを企画し、韓国語試験関連の相談を取り組みました。特に、外国の参加者と体系的なコミュニケーションをとりながら、彼らの韓国語学習に対するニーズを把握し、特定のアプリケーション(Memrise)を利用して語彙を覚える方法やオンライン講義(talktomeinkorean)を通じて文法を学習する方法などを詳しく説明しながら効果的な学習資料を提供しました。 その結果、直接に韓国語試験に興味を持つ人が0人から試験及び言語を具体的に勉強したい人数を4人まで増やし、私の提案した韓国語勉強方法で全員４人がTOPIK４級を取得することができました。このような経験に通じて、問題解決能力を鍛え、顧客様のニーズに合わせる提案を構築に貢献しました。  しかし、私の弱点は几帳面で鋭敏な性格です。仕事の細かい部分を見逃さないようにするのに役立ちますが、時には完璧主義につながることがあります。この弱点を克服するために、重要事項とそうでない事項を区分する練習を通じて業務効率性を高めています。貴社に入社が叶いましたら、これまでの経験とスキルを活かして、多様なクライアントや各国の貴社の社員さん方とも誠意を貴社に貢献できると考えます。 | | | |
| 力を入れた学業  私は大学時代に力を入れたことは、卒業論文の研究であり、 テーマは、「社会運動中のアメリカ社会における闘争と変化への欲求のための声 - 自由の歌とソウルミュージック」でした。  この研究の主な課題はアフリカ系音楽が与えるアメリカ社会内の人権認識の相関関係でした。  しかし、音楽の使い方に関する戦略効果の時代的理解に苦労し、また、ソウルミュージックの歴史に関する膨大なデータや自由の歌の歴史に関する貧弱なデータをどのように体系化し分析するかが問題でした。  これらの課題に直面する中で、私はあきらめず、自由の歌やソウルミュージックの社会的な貢献や実績をアフリカ系アメリカ人公民権運動とブラック・パワー運動に分けてオンラインデータベースを駆使して資料を網羅的に調査し、アメリカ社会の貢献度に比較分析を重ねました。  取り組みの結果、アフリカ系音楽がアフリカ系アメリカ社会における政治・経済的な独立や文化的アイデンティティの確保など、様々な面でどのように影響を与えてきたかを明らかにすることができました。  この研究を通じて得た学びは、向上心を体系的に持つことで専門性を高めることの重要性です。  貴社においてはこの研究で培った向上心を戦略的思考を強化することに使い、目標達成に向けて主体的に行動する姿勢が、チームや組織における様々なプロジェクトの成功に貢献したいです。 | | | |
| 学生時代に頑張ったこと（経験したことや成果について記入してください）  私は学生時代日本国際フォーラムのリサーチ事務インターンに力を注いてきました。  活動を始めたきっかけはグローバル化を通じて急激に変化する社会に深い興味があったからです。そのため、外国語や文化を学びながら、グローバル社会に関する勉強を続けました。  そこで国際関係に関する日本発展という目標し、事務企画して記事刊行物を作るという活動を始めました。活動の中での一番の困難は日本と東南アジア外交関係状態について全般的に知識が貧弱だったということです。  そこで日越関係交流を行った分野や時代を細分化し、マルチメディアとテキスト分析や導入事例と比較分析を通じて調査を行い、内容を日本語で翻訳しました。段階の修正を経て、最終段階で働いていたインターンメンバーとコミュニケーションをとりつつ、一緒に編集をした。  その過程が終わった後、日越関係の最終本を発表した。その結果、グローバル化に沿って日越関係記事刊行物を出版するという目標を達成できました。  この経験では慎重な競争性という人柄が共同リサーチプロジェクトの場面で活かされ、最終的に外交記事の公式掲載繋げることができました。この共同学術雑誌出版という困難な経験からがコミュニケーションや協調心が大切だということを学ぶことができました。 | | | |
| 志望理由と入社してやりたいこと  大学２年生の時、日本大学留学行政部門の家庭教師を務めながら、日本留学計画の策定(模擬エッセイ、模擬面接、日本語能力試験準備など)や個別相談を通じて学生との信頼関係を築きました。その結果、学生がエッセイを通じて日本のファッション産業に寄与するという目標を明確に見せることを褒められ、目指している日本文化服装学院に入学合格させました。 この経験を通じて、個人のニーズを理解する分析力、緻密な計画、グローバル人材の価値を学べました。  このような経験を基に、私は多様な文化と産業に対する知識で、グローバル人材が全世界の産業に寄与できるよう支援したいです。特に、エンワールド・ジャパンは国際的な顧客とのコミュニケーション経験を通じて日系および外資系企業のためのミドルからハイクラスまでの採用過程に関する専門性が高いと知りました。貴社の目標が私の求める多様性と向上心という価値観と一致して私に魅力的に感じました。将来のキャリアアドバイスや戦略において、市場動向のリサーチや分析を通じて、求職者と企業のニーズに応えることが重要です。そのため、私は日本国内の外資系企業の多様性と特性を生かして採用プロセスを最適化し、グローバル力量を備えた人材の発展を促進することに寄与したいです。  入社して後、国際教養を専攻した多様な授業で鍛えたリサーチ能力やアドバイス関連経験を活かし、実際の市場動向に関するデータで就職市場のトレンドを得て、コンサルタントとしてエンワールド・ジャパンの人材紹介プロジェクトで求職者および企業に最新の情報や戦略を提供し、グローバル人材産業の発展と共に求職者の長期的な個人的な成長に貢献できる専門家になりたいです。特に、日本内にある外資系企業の多様性を理解し、 採用プロセスを最適化し、グローバル力量を備えた人材の発展を促進するのに寄与したいです。 | | | |